

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796500011		
法人名	株部式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから堺たんぼぼ村		
所在地	大阪府堺市北区中村町198番地の1		
自己評価作成日	平成22年4月30日	評価結果市町村受理日	平成22年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2796500011&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府大阪市中央区常盤町二丁目1番8号 親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが、生き甲斐を持ってグループホームたんぼぼ村で、日々安心してけんこうに注意しながら、毎日過ごして頂ける様にいつも配慮している。入浴は、清潔を維持して頂ける様に、Nsと健康確認して週3回実施している。季節感を持ってもらえるように、天気が晴れの日には、外気浴できるようにしている。また、地域の行儀(お祭り)等は寄っていただき、子供たちにお菓子等を渡している。また、ボランティアを活用して、大泉緑地の綺麗な花々を見に出かけたり、絵手紙・いけばな・フラダンス等楽しんでいただける機会を行事予定者が、計画を立てた実施している。家族には、安心してたんぼぼ村で過ごしている様子を、たんぼぼ通信等で知らせ、面会時には、介護者が近況報告をしている。緊急搬送については、これからも指定病院の強化を図り、開設4年が過ぎ、利用者のADL低下に注意していきたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体は介護関連事業を多角的に経営しているが、「ここから堺たんぼぼ村」は、その事業の一つで平成18年12月に既存の施設を引き継いで設立された。事業所には広いスペースの駐車場があり、毎年の夏祭りには子どもだんじりが入って来て、利用者が子どもたちを接待する場として使っている。その他、道を隔てた処の公民館の予備の駐車場に提供したりするなど、地域とのふれあいの場として有効活用されている。また、職員の中から行事担当を決め一年の行事計画をたててそれを実施している。その行事の一つに絵手紙教室がある。出来上がった作品を家族に便りとして送り喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔・朝礼時に復唱して業務に入っている。	「家庭的な雰囲気、地域の中で穏やかな生活、いつも笑顔」を事業所の理念として掲げ、朝礼時に職員全員で唱和し理念を共有、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事がある時は、参加できるように施設に立ち寄ってもらって、地域住民と交流している	地域の行事には積極的に参加している。夏祭りの子供だんじりに利用者が接待したり、事業所の駐車場を向かいの公民館が満杯の時には提供したりするなど、双方向で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な取り組みはしていないが、介護相談等は個別に受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議で、細かい取り組みについて、報告し改善の検討をしている。家族等の意見も反映するようにしている	入居者、家族、自治会代表、地域包括支援センター職員、事業所職員等が参加し2ヶ月に1度開催している。会議では、事業所からの報告の他、意見や要望を受け、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護課には必要な経過報告等を行い、事故等については必要時、市に報告している。相談が必要な時は窓口に行き行う時もある	必要に応じて区役所担当窓口へ出向く他、一ヶ月に一度ある北区のグループホーム連絡会で勉強会をして色々な情報を取り入れている。しかし、連絡会には区役所担当者の出席はない。	グループホーム連絡会には区役所担当者の参加を要請し、グループホームの実情や課題について情報交換することが望ましい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は立地上必要な為、家族からも必要性については求められている。身体拘束については、しないで介護にあたっているが、家族から必要性の確認があれば、ベッドの柵の設置をする方も今は居る	事業所の前の道路は大型ダンプの往来が激しいために安全を優先して玄関は施錠されている。居間から庭には自由に出入りができるので閉塞感を感じられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法については、随時勉強の機会を検討しているが、特別行っていない。虐待等困難ケースについては、その都度皆で話し合っており、介護に合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要な方の手続きしている方が1名いるが、待機になっている。今後必要な方もおられるので考えて生きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が任務している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議・家族会等で意見を聞いて、全体会議や、地域会議で報告等をして、反映させている	家族の来訪時や運営推進会議、家族会、意見箱など常に意見を表せる機会を設けている。その意見を月一度のミーティングに図り、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開催して、報告・意見等をまとめている。日頃も必要な意見交換を行っている。	月一度のミーティングで、介護体制についての気づきやアイデアなどを出し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が任務している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が任務している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が任務している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、又退院後は利用者の不安が多々あるので、その都度介護者がゆっくり話を聞き、希望していることなど聞き、見守り等にて必要な事を確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りは、1回のみでは出来ないなので、面会等に来られるたびに、いろいろと聞き取って、まとめるようにしている。家族関係・在宅での過ごした様子・施設に希望することを必要時間聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人も家族も、施設入居に対する不安、環境の変化が大きいので、介護についても、自分でできること、介護を要することをその都度検討している。いろいろなサービス利用も必要に応じて検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることの継続・維持を図って、介護している。本人からも、いろいろ話を聞き取っている。必要なときは、担当者会議に家族も参加を依頼して、介護職(Ns)と一緒に支援を検討している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に職員が、利用者の様子を家族に説明している。又、家族からの話もその都度聞いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が外出等に連れ出して楽しまれている。家族より面会希望者等の連絡があれば、面会して頂いてます	これまでの地域社会との関わりを継続していくために、日頃の散歩時やドライブの時に、利用者の馴染みの場所へ行ったり、知人を訪ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外気浴・レグ・食事は一緒に過ごして頂ける様に利用者同士のコミュニケーションが取れるように配慮している。嫌いな利用者同士の関係がわかれば、問題が生じないように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は家族からの相談等があれば、相談に乗っている。家族から入院後の経過等があれば把握できるが、それ以上の支援は図っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞き取っているが、家族からも意向を確認している。介護職も日頃の様子を検討して、サービス計画に反映できるように検討している	毎日の関わりの中で、一人ひとりの思いや、暮らし方の希望を把握している。それらの意向や希望を、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに家族関係や、生活歴・馴染みの暮らし方、これまでの生活歴等聞き取ったことをまとめて、全職員が確認できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りにて日々の変化、ADLの低下・医療的確認等朝夕して、介護の把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画作成時には、担当者会議を開催している。モニタリングは必要時にはその都度するが、落ち着いているときは、3ヶ月毎に見直している	介護計画の期間は一応6ヶ月としているが、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、変化が起きた時にはその都度、臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録を記載して、細かな生活歴をまとめている。感情の起伏・就寝状態なども引継ぎして、介護の継続を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と相談して、施設で対応出来る事、協力できることはするが、出来ない事は、説明して断っていることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	そばに大泉緑地や公園があり、外気浴等に出かけている。近くのコーナン等にも動物が居るので、出かけたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に往診してくれる医療機関も利用しているが、必要なときは家族と相談して、医療機関に受診するときもある	本人や家族等と相談して、出来るだけ事業所の協力医を主治医にお願いしている。協力医による月に二度の往診がある。今までのかかりつけ医での継続受診も家族等と相談しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	Nsに必要な連絡はしている、又全員がわかるように申し送りに記載している。Nsも必要な指示は申し送りにて介護師全員に伝わるように記載している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカー・看護師と連絡をとっている。出来るだけ面会して、身体・ADLの様子を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に管理者からターミナルケアについての説明はしているが、必要時には再度確認している	重度化した場合の対応について事業所の指針を作成している。事業所として対応できるケアについて家族に説明して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化による、緊急対応については、Nsから個別に指示を出してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し、セコムの確認・緊急時の連絡方法をマニュアル化している	年に2回、消防署の指導のもと、消火器の扱い方や避難訓練などを地域の人々の協力を得ながら行っている。しかし、災害時に備えた食料や飲料水などの準備は出来ていない。	災害時に備えて食料品や飲料水、懐中電灯や紙おむつ、寒さをしのげるような備品等の準備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれなれしい言葉遣いにならないように、職員間も注意して話している。	食事介助やトイレ誘導などにおいて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応が見られた。個人ファイル類もスタッフルームの書棚に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク参加も強制ではなく、本人の意思を確認しているが、閉じこもりがちな利用者には、出来るだけ参加するように声かけしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別な行事の時は、お願いして、行動してもらうが、体調・ADL低下時はNsと相談して個別対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は、個人のお洒落着を着用している。体調低下時は、着やすい衣類を着ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむために、みんなでテーブルにてする、おなべ(うどんすき等)お好みなど楽しんでいる。片付け等できる人にはお願いする時もある	食材は専門業者に委託しているが、調理は利用者の好みを聞きながら職員が行っている。食事は職員と利用者が同じテーブルできりげなく介助をしながら、わいわいがやがや楽しそうな家庭的な風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ・流動食・おかゆ等必要時の対応をしている。栄養摂取は、カロリー計算された食材を利用している。嫌いなもの(ねぎ等など)を聞いて除いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、夕食後の口腔ケアを促し、介助の必要な方には、手伝っている。夕食後、義歯は洗浄して保管している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの行動を把握して、排泄による、徘徊・表現を見逃さないように、行きたい時に排泄できるように見守っている	一人ひとりの行動やサインを把握して、さりげない声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している。尿意を表さない利用者の方はチェック表を参考にしながら時間を見計らって誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・お茶摂取など出来るだけ、自然に排便できるように誘導するが、排便確認して、最終的には、薬で対応している。それでも困難時は、Nsが確認している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3日入浴日を設けているので、無理強いせず、体調低下時はNsと確認の上入浴を実施している	月水金のほぼ二日に一度の入浴となっている。時間は利用者のその日の体調や希望により自由に入浴が楽しめる。入浴は1対1の対応で、お湯はその都度入れ替えるため温度設定は利用者の好みに合わせることが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、出来るだけ昼は起きて過ごし、夜に熟睡してもらえるように見守っているが、体調変化時は、様子を見て昼寝等を促す時もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、Nsが管理しているが、用途については書面でわかるように、個人別に日誌と確認できるように、ファイルしている。症状の変化は、直ぐNsに報告して指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レグ等については、本人が得意なものには参加してもらえるように配慮している。個人的に好んでいる楽しみごとは、家族が		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴がわりかし好きな方が多いので、晴れの日には出来るだけ、外出して過ごせるようにしている。大泉緑地のボランティアを申し込んで花を楽しむこともある。家族で対応してくれる利用者もいる	日常的には近くの公園へ散歩に出かけているが、時には事業所にあるマイクロバスでドライブに出かけることもある。散歩やドライブの道すがら利用者の馴染みの場所へ立ち寄りながら、あたり前の生活の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では、盗難等の問題を避けるために、持っていていないが、必要時には施設で立て替えるか、事前に家族から必要分を預かって対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されたら、電話をかけたり手紙を投函したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行って清潔保持を維持している。入浴は一人ひとり湯は交換して、ゆっくり入って頂ける様に配慮している。各場所については、楽しい張り紙で演出している	ゆったりしたりリビングルームでは利用者がソファで、それぞれがテレビを見たり、新聞や雑誌を読んだり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者や職員の作った絵手紙が飾ってあるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファ等、又中庭には椅子等を置いて自由に利用できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が利用者のためにいろいろ工夫されている。本人が喜ぶ手紙や折り紙等を部屋の見えやすい所に配置している	居室は、利用者の使い慣れた家具や仏壇、家族の写真など、思い出の品々が持ち込まれ利用者が居心地良く過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は出来るだけしてもらるように支援している。トイレ、お風呂場等わかるように明記している		